

第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、子育て支援サービス「まいココ」を活用した子育て環境の充実について紹介します。



SDGs未来都市

「まいココ」で子どもの笑顔と子育ての喜びがあふれるまちを目指して



▲ひとまわりで開設している子育てひろばの様子（ひとまわり提供）

本市を取り巻く子育て環境

全国的に核家族化の進行や地域のつながりの希薄化、長引くコロナ禍で、子育て世帯の孤立やワンオペ育児(※)の増加が危惧されています。本市でも、転勤などのため慣れない土地で子育てをしている人が多く、同じような課題を抱えています。

このような中、今年7月から、どの子育て家庭にも確実に情報を届け、さまざまな人や支援につながることで「子育ての孤立」を防ぐことを目的にした、舞鶴市子育て支援サービスアプリ「まいココ」の運用を開始しました。

子育て支援アプリ「まいココ」

運用開始後、約1,300人が登録、利用されている「まいココ」は、母子健康手帳の機能があり、子どものさまざまな成長記録を、スマホなどを使って保存・管理できます。

また、あらかじめ妊娠週数や生年月日などの情報を登録しておくことで、子どもの年齢などに応じ、乳幼児健診や予防接種の案内、子育てイベントの情報など、個々に応じた子育て支援情報が自動的に配信され、大切な情報を逃さず受け取ることが出来ます。情報は行政だけでなく、幼稚園や子育てひろばなど、42の連携する団体が配信しており、毎日更新されています。

さらには、これまで電話や窓口のみで受け付けていたイベントなどの予約がオンラインでできるようになり、10月からは、乳幼児健康診査のオンライン予約も開始されました。

新たな子育て相談窓口

11月からは新たなサービス「まいココ相談窓口」がスタートしました。

「まいココ相談窓口」は、NPO法人との連携で、地域ぐるみや社会全体で支える「共生型の子育て支援」として取り組むものです。携帯電話が身近なコミュニケーションツールである子育て世代が、電話やメール、ビデオ通話で気軽に相談できる仕組みを作ることで、子育てに関する不安や孤立感、負担感を軽減するために実施しています。

相談時間も、平日の17時15分までではなく22時まで拡大されるとともに、休日にも利用することができ「子どもが寝てくれない」「周りにはできるのにうちの子は大丈夫？」といったちょっとした心配事から「助けてくれる人がいない」「ちょっと子どもをみて欲しい」などの困り事などいつでも気軽に相談できます。

相談を委託するNPO法人「ひとまわり」には、社会福祉士や保育士、子育て支援員など、専門職が従事し、市の子育て支援基幹センターや子ども総合相談センター、保健センターなどと連携して対応していることで安心して利用できます。

子育て環境日本一を目指して

本市には特に、転勤を伴う仕事をしている子育て世帯が多くいます。まだ地域とのつながりが少ない子育て世帯にも「まいココ」を通して、さまざまな関係機関とつながってもらい、一人で子育てをするのではなく、市全体で子育て支援をしているこの舞鶴の「ぬくもり」を感じてもらいたいと思います。

今回の取り組みは、舞鶴が培ってきた地域共生の文化や人的資源とデジタル技術の活用によって、舞鶴ならではの特徴的な子育て支援サービスを展開していこうとするものであり、今後も、子育て環境日本一を目指して子育て支援の充実に取り組んでいきます。

◆相談時間の拡大（夜間や休日の相談に対応）
◆相談方法の拡充（メールとビデオ通話による相談が可能に）

	月	火	水	木	金	土	日
8:30	市窓口の主な子育て相談時間	電話	メール	ビデオ通話			10:00
17:15	NPO 法人ひとまわりと連携した子育て相談時間の拡大	電話	メール	ビデオ通話			
22:00							

○ …従来の機能
□ …新たに充実した機能

アプリは「母子モ」で検索

母子モ 検索

アプリ「母子モ」をダウンロードし、舞鶴市を選択するとまいココが利用できます。右上コードからアクセス可。



INTERVIEW

まいココ利用者
若松 千春さん(右)
若松 柚月さん(左)



「まいココ」は支援センターなどが開いているかの確認や健診の情報、どんなイベントがあるかの確認に活用しています。アプリがあれば、紙媒体のものを持ってなくてもいつでも確認できて使いやすいです。

今回健診の予約機能が拡充され、これまでは、保健センターからの日時指定で健診に行く日が決まっていたものが、アプリの予約なら自分で時間を選べるのでいいなと思います。

ただ、健診の予約などのイベント欄で、支援センターや他の子育てひろばのイベントの予約ができるのですが、自分で検索しないと情報を手に入れることができません。健診でも人気の時間帯は気が付いたときには埋まっていることがあります。

今後「まいココ」のトップページで、新着情報という形で見られるようにしてもらえたらありがたいですし、使いやすくなると思います。

特定非営利活動法人
ひとまわり 代表
谷口 英子さん



地域の中で暮らし続ける時に、いろんな世代の人と混じり合っていく、それはコミュニティーとして当たり前のことです。いろんな人の中で暮らすことでさまざまなコミュニティーを受け入れられる子どもが育ち、そうした子どもが「つながり」を作りながら成長することで地域社会ができると考えています。「ひとまわり」は子育ての拠点を持ちながら、自由にさまざまな場所で人の縁を結び、人と人をつなげることを丁寧にしたいという思いで立ち上げました。専門家がなくても見よう見まねでできていた地域の井戸端会議のような子育て環境がなくなった中、井戸を掘る役目を担い、子育て支援の「入口」としての専門性を持って「つながり」作りに取り組んでいます。

「誰一人取り残さない」「子育ての社会化」と言われますが、子育て支援の「入口」として身近な相談は私たち住民同士の支え合いの中で解決し、緊急性が高く、住民同士で解決困難な相談は行政にお願いする、今回の取り組みがきっかけとなって、そういった「地域共生と連携による子育て支援の『まち』」に近づけたら、理想的だと思います。

※ワンオペ育児…パートナーの単身赴任や残業などの理由で、夫婦のどちらか一方に家事や育児の負担がかかっている状態